



岩手日日新聞社

一関市南新町 60

郵便番号 021-8686



実験形式で楽しくお茶の上手な入れ方を学ぶ児童ら＝8日、陸前高田市・米崎小

茶の入れ方 基本学ぶ

陸前高田米崎小
児童・伊藤園に

伊藤園(本社東京都、本庄
大介代表取締役社長)による

講師に、おいしさを左右する湯の熱さや茶葉の量、抽出時間などについて実験形式で楽しく理解を深め、茶の入れ方の基本を習った。

東日本大震災復興支援の一環として、震災以降途絶えて

「お茶の正しい入れ方セミナー」8日、陸前高田市立米崎小学校で開かれた。6年生30人が受講。同社員を

傘の中 笑顔満開

メリ
プロジェクト

NPO法人「MERRY PROJECT」(水谷孝次

いた学校行事のお茶会の代わりに、卒業前の思い出づくりとして開いた。同社資格制度によるティーティストが、

数人分を均等に注ぎ分けて、2煎目もおいしく入れる基本などを実演を交えて分かりやすく指導した。

代表は8日、伊藤園とのタイアップによる「絆」プロジェクトの一環として、陸前高田市立米崎小学校でワークショップを催した。被災地の子供たちの笑顔を撮った写真をプリントしたユニークな傘を

手に、1、6年生が校舎前を行進したり、記念撮影したりして楽しいひとときを過ごした。

北京五輪の開会式に登場して世界の子供たちの笑顔を届けたことでも知られる傘。震災後は被災地へ笑顔を広げる活動のためにも製作され、心のケアを目的としたワークショップなどで使われている。同日はワークショップのほか、併催の「お茶の正しい入れ方セミナー」の会場を大いなる傘で飾り付けた。



記念写真に収まる米崎小児童ら (MERRY PROJECT 提供)

奇跡の一本松 保存募金に寄付

伊藤園



伊藤園は8日、陸前高田市の「奇跡の一本松保存募金」に50万円を寄付した。グループ社員の募金によるもので、贈呈は市役所仮庁舎で行われ、相馬藤嗣執行役員北海道・東北地域営業本部長が、戸羽太市長に手渡した。写真

同市では、高田松原のマツ7万本のうち東日本大震災の津波に耐えて唯一残った「奇跡の一本松」に人工的な処理を加え、モニタメントとして保存する工事を行っている。費用約1億5000万円を同募金で賄うことから、同社員らも協力した。

募金に関する申し込みと問い合わせは、市都市計画課 0192(54)2111 内線4611まで。